

|      |              |           |            |        |     |
|------|--------------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名  | 課題演習（ファイナンス） |           |            | 授業形態   |     |
| 担当教員 | 森澤 龍也        | 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 3時限 |        |     |
|      |              | 単位数       | 0          | 履修開始年次 | 1年生 |

#### 主題と概要

この演習では、非伝統的金融政策について理論と実証の観点から考察する。テキスト・資料の輪読・討議、および、解説講義を通じて、これまでの金融政策からの教訓を活かした今後の金融政策の方向性についても展望する。

#### 到達目標

金融政策の理論・実証研究に関する知見を学ぶことができる。

#### 提出課題

講義中課題・レポート課題を予定している。

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

実施した課題に関して適時、講評・解説を行う時間を設ける。

#### 評価の基準

報告・討論参加： 50%  
講義中課題・レポート課題： 50%

#### 履修にあたっての注意・助言他

毎回、教科書を持参して、講義に参加すること。  
教科書を持参していない場合は出席回数に算入しない。  
遅刻・欠席は減点の対象である。

#### 教科書

|            |      |     |      |               |
|------------|------|-----|------|---------------|
| 『非伝統的金融政策』 | 宮尾龍蔵 | 有斐閣 | 2300 | 9784641164901 |
|------------|------|-----|------|---------------|

#### 参考文献

参考文献については講義中に適時、紹介する。

#### その他

必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。

#### 授業計画

1. 金融政策概論
2. 非伝統的金融政策とは何か
3. 非伝統的金融政策とは何か
4. 非伝統的金融政策の効果はあるのか
5. 非伝統的金融政策の効果はあるのか
7. 非伝統的金融政策の効果はあるのか
8. 非伝統的金融政策の効果はあるのか
9. 2%物価安定目標は妥当なのか
10. 2%物価安定目標は妥当なのか
11. 懸念すべき副作用は何か
12. 懸念すべき副作用は何か
13. マイナス金利政策の影響は何か
14. マイナス金利政策の影響は何か
15. 今後の展望

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習）                       | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート                     | エ：グループワーク                                  |
| オ：プレゼンテーション                          | カ：実習、フィールドワーク                              |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） |  |

#### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・総予習 5時間： 開講までに指定された教科書を通読し、全体の内容を把握しておく。
- ・予読 1.5時間/回×15回： 自らの教科書指定範囲を熟読し、輪読・討論のための要点をまとめておく。
- ・復習 1.5時間/回×15回： 教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、自らの内容に関する理解を深める。
- ・レポート課題作成 10時間： レポート作成のための情報収集・分析・執筆に取り組み。

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

DP(1)-1との関連性：目標を達成することでDPに貢献できる。  
DP(1)-2との関連性：金融論・ファイナンス論は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「高度専門職業人として、より実践的・課題解決的な能力を身につける」ことに貢献できる。  
DP(1)-3との関連性：金融論・ファイナンス論は流通科学分野の本流科目ではないが、所定の目標を達成することでDPの「専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させる」ことに貢献できる。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

輪読・討論によって講義を進める予定である。毎回、教科書の該当箇所をよく予習して講義に臨む必要がある。クリッカーを使用する予定である。

#### 実務経験の有無及び活用

なし

#### 備考

一定の経済数学の知識（微分、テイラー展開、等比数列、線形代数など）を習得していることが望ましい。  
毎回の予習・復習が欠かせないことを肝に銘じて受講されたい。